

## BCAO関西支部 令和4年6月度(第169回)地域勉強会 議事録

日 時 2022年6月15日(水) 18:50~20:30  
場 所 大阪中央公会堂 第4会議室 / zoomのハイブリッド開催  
司会者 飯田 書記 野原  
出席者 (会議室) 飯田、大館、別役、寅屋敷、野原  
(Zoom) 萩原、徳山、中島、中村、上辻、湯地、松尾、西濱、田中  
(敬称略、順不同) 計14名

演 題 集客施設の危機管理取組みについて  
講 師 関西地域勉強会 大館 伸行 氏

### 概 要

1. リスク管理体制
  - ・コンプライアンス関係
  - ・情報管理委員会
  - ・安全衛生委員会
  - ・防災委員会
  - ・リスクマネジメント委員会(BCP 担当)
2. Covid-19 対策
  - (1) ゲスト対応
    - ・業界内のガイドラインをベースに運用、現状は第4版で次回改定に向けて調整中。  
厚労省と、経産省の指導を頂きながら改訂。(マスクの制限解除等)  
場所の人数制限、保護メガネ、フェイスシールド等の着用。
    - ・発熱等症状がある人は入場をお断り
    - ・施設内は消毒を徹底(ゲスト自身での手指消毒含む)
    - ・通勤等、移動時のマスク着用
    - ・大阪コロナシステムの利用
    - ・アトラクションの基本感染対策の徹底
    - ・飲食店舗関係の対応(大阪ゴールドステッカー認証に沿った対応)
    - ・施設については現在も閉鎖中のものもある
  - (2) 社内対策
    - ・ワクチン接種(職域接種は3回目まで実施済み)
    - ・黙食
    - ・消毒の補充(選任者あり)
    - ・間隔を保つためのテープの対応など
3. 防火防災関連
  - (1) 防火防災優良認定  
施設のメンテナンス(設備更新)が喫緊の問題
  - (2) 防火防災体制  
ファシリティオーナー制度  
防災委員会委員会は年次会、月例会、臨時会(地震や台風等)
  - (3) 自衛消防体制  
夜間の防火体制強化は課題
4. 各種訓練対応
  - (1) 火災、安否確認、大規模災害、アトラクション事故、テロ対策、普通救命救急講習  
AED パーク内に100台強設置  
パーク・クローズ後の大規模災害事故訓練等実施
  - (2) 最近気になるリスク  
津波、内水氾濫  
無差別殺人、放火(入口での危険物検査の徹底が求められている)  
人手不足への対応

<質疑応答>

- ・コロナ感染対策のゲスト対応についてマスク未着用の方への対応  
⇒トラブルはある。正当な理由がない限り従ってもらう。理由があり、着用ができない人は、シールを貼ってもらう等の対応をする。
- ・発熱者への対応  
⇒涼しいところで休憩後に再検温。それでも熱があれば入場を丁重にお断り。途中で発熱した場合は救護所へ一旦収容し、発熱が確認できれば退園して頂く。
- ・コロナ感染者対応訓練は特別にされているのか  
⇒啓発活動は行っているが、訓練はできていない。当初はクルーが陽性になったら特別清掃を実施していた。
- ・お客様が感染した場合は、どこまで対応するのか  
⇒あくまで発熱の確認はできるが、コロナ感染者か否かまで解らないため、ゲストが園内から出るまでは会社で対応。園外へ出られた後はお客様の責任。
- ・大雨時の対応(内水氾濫)、降水量監視等について  
⇒予報は1H単位で予測が出るが10分単位では出ない。短時間豪雨は排水が追い付かない。予報が外れることもあるが、予報が出たらできることを行う。台風の予測、吹き返し等気象予報は難しい。
- ・コロナの感染者の状況調査、従業員1万2千人の集計方法について  
⇒従業員の感染状況は各所属ごとに集計し、それを全社として纏めをしている。判断が難しい内容はリスク主管部門で判断。
- ・大規模災害訓練について  
⇒現場のアルバイトの方を含め訓練。発災から1次避難(火災含む)、2次避難完了までを訓練(津波等)。対応のシナリオについては、3日後までを初動対応として、3日後以降はBCPでの対応としている。3日後以降のBCP訓練はできていない。
- ・パーク内の飲食店の経営はどうなってるのか。コロナで閉店にはなっていないか。  
⇒店舗は自社運営している(=撤退したテナントはない)。
- ・避難訓練について応急救護所の設置については、訓練時にしっかり設置していると感じたが、その時に実際に役割に応じて実施しているのか。  
⇒それぞれの役割に応じて看板設置や、トリアージ等を実施している。
- ・津波発生時は避難訓練が終わってからは図上演習となっているが、どこまでゲストに対してケアするのか。  
⇒ゲストは24時間は事業者がケアすべき(社員は3日間)という基準があるが、4日目以降の対応基準は、区や市、府等どこに聞いてもわからない。その対応は企業まかせになっているのは問題。収容避難所ではないので、どこまで想定するのか難しい。現実、在住区数よりも来場者の人数のほうが多い時があり、市に相談しても、それは企業で考えてくださいと言われてしまうのが現状。実際対応しようとするとなん百万食も用意が必要。長期間の屋外滞留は難しく、屋内滞在場所や食料、水、トイレなどの確保が難しい。
- ・お客様の避難先は屋内か、屋外か  
⇒お客様のほとんどが屋外避難となるだろう。避難先をホテルにお願いしても極一部の弱者限定になる。

以上